

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

第38回

日蓮宗大法寺院首
関谷泰教さん

私は寺の次男として生まれまし
た。6歳上の兄がいましたが、高
校生のときに病死。姉妹はいます
が男は私一人となったので、必然的
に仏教を学ぶ道へと進みました。

住職である父から何かを教えて
もらったことはありません。お経
を教えてもらった記憶もない。た
だありがたいことに、師匠や檀家
さん、いい環境に恵まれ、徐々に
僧侶としての意識が出てきました。
大事なものは「発心(ほっしん)」。
「やるぞ」という気合いです。何事
も瞬時にできることはありません。
環境や人との縁、言葉などに影響

されて、じわじわと湧いてくるも
のです。そしていつの間にか導か
れているのです。

良縁に気づき、「ありがたい」
と感謝することが大切

みなさんは普段、「縁」に感謝
することはないでしょうか。でも、私
たちは縁に影響されて、成長した
り導かれたりしているのです。漁
師が山に木を植える例え話があり
ますが、これは山に豊かな森があり
ると、その森が川魚の食物を育み、
川を介して豊かな漁場が守れると
いう自然界の縁の話。このように、
縁に気づかないと人生はうまくい
かないのです。良縁に気づき、「あ
りがたい」と周囲を見渡すことで
成長できるのです。

感謝することができるようにな
れば、やさしい心になります。心
が豊かになれば、環境も変わっ
てきます。因縁の「因」とは自分の
心。自分の心に合掌し、他の人の
心にも合掌して生きましょう。

お葬式の意義をしっかりと
考え直してみよう

最近、親戚や知人も呼ばず、
家族だけで故人を送る「家族葬」
が増えています。しかし、お葬式は
人生の証です。亡くなった人た
さんの人が来てくれて、手を合わ
せてくれる……そこにその人の生
き様が表れるのです。それを家族
だけで済ませてしまうとは、その
人の人生は一体何だったのでしょう

か？ 本来ならもつとたくさんの
人がお別れに来てくれるはずなの
に、なぜ家族がその繋がりを断ち
切ってしまうのか……。

祭壇が立派でお金をかけている
のがいいお葬式ではありません。
故人のためにたくさんの人が集ま
ってください、それがいいお葬式
です。お葬式には人間関係が集約
されているのです。

そもそも、なぜお葬式をするの
でしょうか？ それは仏教の三世
(さんぜ)思想によるものです。仏
教では、人は前世・現世・来世とい
う三つの世をめぐって生き続ける
と考えます。私たちは今、現世に
生きていますが、その前は前世を
生きていた。そして現世で亡くな
ったら来世に行く、という考え。つ
まりお葬式は現世における最後の
儀式であるとともに、来世への出
発点でもあるのです。

来世のことを思い、お葬式の意
義をもう一度しっかり考えること
が、現世を生きる私たちには必要
なのではないでしょうか。

周囲の縁に感謝することで
心が大きく成長します

せきや・たいきょう 1946年生まれ、愛媛県出身。高校3年生のときに得度。1965年、立正大学
仏教学部宗学科に入学。1969年に卒業後、愛媛・松山市に戻り、実家である大法寺にて僧侶と
して勤める。2001年より8年間は宗会議員、2009年から2年間は日蓮宗宗務院にて伝道局長を
務める。2012年に住職を退く。大法寺・愛媛県松山市本町5-4 ☎089-925-7335



大法寺は1534年の創立。昭和20年の大空襲によりすべてを焼失したが、昭和38年に本堂再建。その山門なども整った。